

丹波佐吉の狛犬 1－記載

環境教養学科 磯 辺 ゆ う

1、はじめに

江戸時代半ば以降、神社屋外に設置する石造狛犬奉納の動きが徐々に一般大衆のなかに広がり、近畿地方では大坂から周辺部に波及していった（小寺、2003）。そのような中で、幕末期、名人石工丹波佐吉が登場する。佐吉は但馬竹田の生まれで丹波大新家難波金兵衛伊助のもとで成長・修行し、大和・大坂で活躍した。

佐吉の狛犬は、現在までに計14件が知られているが、その中の1件は台座のみで狛犬そのものはほぼ模刻された新しいものである。この14件中、奈良県に11件が存在し際立って多い。これらの奉納年は、わかっているもので嘉永5年（1852）から文久3年（1863）である。なお、佐吉は狛犬のほかに、石仏、石灯籠、石狐などを残している。

佐吉の生涯と作品については、金森敦子氏（1988）の労作により概ねたどることができ、そこには狛犬が7件挙げられている。一方、佐吉の狛犬が最も詳しく紹介されているのは、奈良県文化財同好会による「狛犬の研究—大阪府の狛犬」（1999）である。ここには13件紹介され特徴の概略と6件の写真が示されている。ここに小寺慶昭氏（1999）は京都府全域の調査により、京都府から1件を加えた。江戸時代末期の一人の石工の生涯とその作の初めから終わりまでをほぼたどることができるということは、非常に稀なことであるが、以上の人々の精力的な仕事により可能になってきた。しかしながら、佐吉の狛犬については、いずれの場合も芸術的な観点からその彫りの細かさや勢いなど、見た印象が述べられており、形態がきちんと記述されてきていない。これは佐吉のものに限らずおおむね狛犬全般についていえることでもある。そのなかで小寺氏（1999, 2003）は全域調査を通して形態観察を行い、歴史・地理的な成果をあげている。しかし佐吉という個人を対象にした場合、彼が、どのような意識の流れで狛犬を作ったかをたどるためには、その作の形についてさらに詳細に記載、比較する必要がある。ここでは、新たに発見した狛犬も加え、佐吉の狛犬についてその形を詳述したい。

本稿では、佐吉の狛犬の特徴を明らかにするために、その狛犬の全てを写真で示すと同時に、台座に刻まれている「奉獻」の文字も示す。現在まで、佐吉狛犬の「奉獻」の文字の刻みが深いことについて言及されているものの、文字そのものは対象外になっていた。しかし、この文字は製作者の特徴を示していると考えられるので、ここに記録した。今回、新たに発見した佐吉作の狛犬1件、台座1件（狛犬は平成作であるが佐吉の狛犬を模してあるようだ）、参考狛犬2件を加えて、全狛犬を提示する。

比較のために示す参考狛犬は、佐吉作ではないと考えられる奈良県橿原市見瀬町・牟佐坐神社（慶応元年1865 六月）、小島屋半兵衛作奈良県斑鳩町・三井神社（天保十年1839 十一月）のものである。こ

の二つを挙げた理由は、前者では佐吉特有の「奉献」の文字があること、後者ではこの作者名で多くの狛犬が残っており（世襲の名前で複数の人物の可能性はある）、その中でも三井神社のものは良品であることによる。

2、方法

写真はできるだけ正面から撮影した。狛犬のサイズ（表1）は、州浜（脚直下の、狛犬と一体になった平たい台座）の縦、横、高さを測定し、横および前正面写真から計算して求めた。尾の縦と横は実測した。「奉献」の「奉」の縦の長さと同様の深さを測定し、彫りの深さについて計量した。「奉」の彫りの深さについては「丹波佐吉の狛犬2－考察」（以下「2－考察」）でとりあげる。狛犬を区別するために、佐吉をSとして制作年順に番号をつけ、小島屋半兵衛をK、不明をUとした。

3、佐吉の狛犬と「奉献」

佐吉の狛犬には、多くの場合、銘として「照信・花押」（図1）が刻まれている。これがあれば佐吉のものと決定できるが、宇陀市S1平井・八王子神社の場合この銘は無い。しかしその作風や



図1 銘（斑鳩町 阿波神社）

設置場所・時期・奉納者名・伝承から、佐吉作と判断されている。本稿で新たに加えようとしている2例（大和高田市藤森・十二支社、北葛城郡広陵町沢・白山神社）には銘がない。この2例を佐吉作であると判断した理由は、狛犬の作風・形であると同時に前者の場合、台座の「奉献」の字体である。

「奉献」とは、狛犬・州浜を乗せる大きな台座に彫られているもので、阿吽とも「奉献」をもつ場合と、それぞれに一文字ずつの場合がある。また「奉納」とされる場合もある。佐吉の狛犬の「奉献または奉納」を図2にまとめた。佐吉の場合「奉献」がほとんどで京都府園部町S16摩気神社のみ「奉納」となっている。これらの文字を並べてみると彫り方だけではなく、その字体が独特であることがわかる。特にS3神楽岡神社からS10永原・御霊神社まで骨太の文字の特徴が共通している。この明瞭な特徴からこれらの文字は同一人物が揮毫したものと判断できる。この間、佐吉の仕事の場は、宇陀（S1平井・八王子からS5久米御縣まで）から大坂に移動しており（金森、1988）、違った場所で同一人物による書を常々使っているのは、本人が書いていると考えるのが最も妥当である。また、最初の2件（S1平井・八王子、S2丹生川上）はまだ教科書的な文字であるが、力の入れ方や勢いからやはり同一人物の文字であると考えてよいだろう。徐々に力強さが加わってきて、三番目から佐吉独自の「奉献」を確立したといえる。

S7藤森・十二支社の狛犬は、残された台座（安政五年1858）の「奉献」が佐吉の特徴を示している。その上に平成五年（1993）再建の狛犬が乗っているが、顔他明らかに佐吉狛犬の特徴を示しており、こ

の狛犬の元のものを佐吉狛犬と認めることができる。S12沢・白山神社の場合は、佐吉の文字とは異なっている。しかし、狛犬自体は、斑鳩町神南・S14神岳神社や同町S15阿波神社（台座に「奉獻」の文字が無い）の狛犬と非常に良く似ており、佐吉の狛犬であると判断できる。一方S14神岳神社の「奉獻」は佐吉独特の字体であるものの、彫りが極めて浅い。

兵庫県S11柏原・八幡神社の場合、能筆家で知られた女儒者・亀井少葉の揮毫である。岸和田市・S13兵主神社の「奉獻」は違った字体で保留する必要があるが、ただ力の入れ方等から受ける印象は他の佐吉の「奉獻」と共通するものがあるように見える。そしてS16摩気神社の場合、狛犬の足元の州浜に「奉納」と彫られているため文字が小さい。佐吉は小さな文字を彫る場合、違った字体を用いており（図1）、この「奉納」も「奉」の横棒の勢いなどからおそらく佐吉による文字と考えられる。

「奉獻」は佐吉の字体であるにも関わらず、上の狛犬が佐吉狛犬ではない場合もある。橿原市・U牟佐坐神社（慶応元年1865 六月、佐吉晩年に相当）である。文字のエッジに甘さがあるものの、佐吉の特徴ある字体であり、彫りの深さも遜色がない（「2-考察」参照）。しかし、狛犬そのものは平凡な浪速狛犬で佐吉のものとは考えられない。このような例もあるので、「奉獻」の文字だけで狛犬が佐吉のものであるかどうか判断はできない。逆に上の狛犬が非常に佐吉狛犬に似ている場合も中にはある。大和高田市野口・春日若宮神社（拝殿手前）（慶応三卯年1867：二に見えるが卯年は三なので、棒がひとつ欠けたと判断）の場合である。これは非常によくできているが佐吉狛犬とは考えない。後述する後ろ足の間の仕上げができていないこと、耳から垂れた毛先が首周りの渦毛の下になっていること、表情に違いがあることによる。しかし、この作者はかなりの腕を持ち、佐吉狛犬を十分に意識しながら作ったようである。

大坂西横堀小島屋半兵衛の「奉獻」（図2 K三井神社）もまた教科書的な端正な文字ながら、佐吉とは違った特徴が現れている。小島屋半兵衛の狛犬も多いが、ほぼ共通した「奉獻」をもっている。

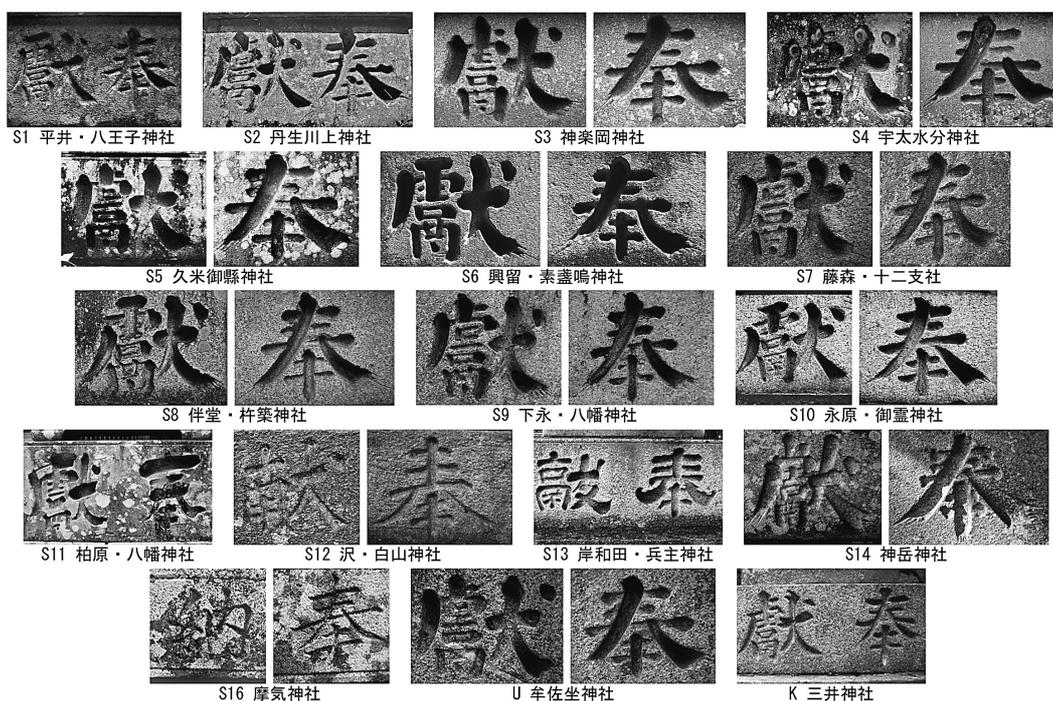


図2 台座・州浜に彫られている「奉獻」「奉納」

4、記載

製作時期と形態から狛犬を5期に分け、期ごとに特徴を述べる。台座のみになっている場合も、台座の上に佐吉を模したと考えられる新しい狛犬が据えられており、その時期の形を考える参考になるので、同様に示した。各々の神社名の後の（ ）内に、寄進年月日、西暦、作者銘、その他の主な記録内容を、下に、神社住所、既出の文献の主なものを挙げた。狛犬の写真を図3（全身）、図4（尾）に示した。また、記述中、参拝者側を「手前」、反対側を「奥」、頭側を「前」、尾側を「後」、巻き毛を「渦」、巻かない毛束を「直毛束」、首まわりの直毛束を「たてがみ」とした。

(1) 佐吉狛犬

いずれも向かって右が阿、左が吽。全てに共通する特徴は、州浜に杵線があり小さな脚があること、胸部に比べて前脚つま先の間隔が狭くなり、つま先を寄せぎみなこと（図3、前からの写真参照）、後ろ足の間が彫り込まれていてねいな仕上げ（「2-考察」図2-1）であることである。前脚の付け根は、左右で前後・上下に位置のずれが多少とも認められ、体のひねりを高度に表現している。多くの場合、手前側（阿：左脚、吽：右脚）の脚付け根が下がり、後方に引く形になっている。体の各所に花の模様がよくあり、菊紋と呼ぶ。胸では、渦巻きになっている場合もあり、まとめて胸紋（「2-考察」図2-6）と呼ぶ。これらの特徴は最初の八王子神社から認められるが、平成狛犬に替わっている場合（S7藤森・十二支社、S13兵主神社）は、この限りではない。多くの場合、後ろ足後方に毛が流れている（「2-考察」図2-7）。

表1 狛犬のサイズ（阿像 単位cm）

期	狛犬番号	狛犬						尾	
		全長	体長	体高	胸幅	体高/体長	体高/胸幅	縦	縦/横
第Ⅰ期	S1	37	30	46	21	1.5	2.2	27	1.5
第Ⅱ期	S2	63	54	65	33	1.2	2.0	53	1.6
	S3	74	66	76	35	1.2	2.2	47	1.5
	S4	80	64	81	40	1.3	2.0	54	1.3
	S5	70	53	72	35	1.4	2.1	51	1.7
	S6	72	62	83	34	1.3	2.4	55	1.2
	S7	66	60	69	28	1.1	2.5	47	1.5
第Ⅲ期	S8	73	69	93	36	1.4	2.6	65	1.8
	S9	75	65	89	38	1.4	2.4	58	1.5
	S10	64	59	75	31	1.3	2.4	64	2.7
	S11	64	52	71	30	1.4	2.4	33	0.8
第Ⅳ期	S12	64	52	64	30	1.2	2.1	42	1.3
	S13	75	69	85	35	1.2	2.4	56	1.4
	S14	60	54	65	31	1.2	2.1	44	1.3
第Ⅴ期	S15	52	44	60	25	1.4	2.3	35	1.1
	S16	73	62	73	32	1.2	2.3	45	1.6
その他	U	77	69	87	38	1.3	2.3	70	1.7
	K	63	57	69	34	1.2	2.1	45	1.4

多くの狛犬では、毛は州浜の途中で太もも上に巻き上がる。

佐吉作ではないU牟佐坐神社、小島屋半兵衛作K三井神社の狛犬の前脚は左右並行で、脚付け根の微妙なずれは少ない。

各狛犬のサイズについて表1にまとめた。

S15阿波神社とS16摩気神社は年代不明である。S16には他にない特徴が多いため最後とし、S15はⅣ期に含まれるものの順番は不明である（「2-考察」参照）。

注1、全長：鼻から尾の後端まで 体長：鼻から胴または後足の後端まで
体高：前脚下端から頭上端まで 胸幅：胸の最大幅

注2、S7とS13は平成に再建されたもの

第Ⅰ期（1852）

上背がある（体高/体長が大きい）、胸を押し出しぎみ（図3-1 S1阿-①）。顔は目から鼻先ま

で長く（「2－考察」図4）、顎鬚が短い（「2－考察」図2－3）。尾：直毛束の先が複数ある扇の形、横に渦、後面膨らむ。犬歯1対。顔は斜めに手前側を向く。前脚付け根上下左右のずれ（体のひねり）あるものの、首まっすぐ立って頭部の手前側へのせり出しが少ない（図3－1 S1阿－②）。

S1 平井・八王子神社（嘉永五年1852 九月二日、無銘・伝承、阿：心願成就、吽：願主平田彦八郎）
奈良県宇陀市菟田野区平井。金森1988、奈良文化財同好会1999、藤倉2000。

小型。耳：平ら横向き、先の毛が流れない（「2－考察」図2－3）。吽に角あり。雌雄なし。たてがみ前になびく。尾：渦は阿吽とも左右に各3個、上に伸びる直毛束は阿5・吽3、ただし阿の5本は前後3列（前から1・3・1の配列）。胸紋なし。背骨は阿吽とも菊紋3個で表現。後ろ足後方に流れる毛束の先に渦なし。州浜：前面平らで脚が見えない。

第Ⅱ期（1853—1858）

体高／体長低め。体高／胸幅は初期低め、後期高め。胸に対して頭部を前に出すようになる（図3－1 S2～S7阿－①）。目と鼻先の間はS1よりやや短く、顎鬚多くは短い。阿吽とも顔を手前側に斜めに向ける。州浜は四方から脚が見える。犬歯2対。後ろ足後方流れ毛の先に渦なし（かかと付近の小渦とは別）。吽に角あり（十二支社に無いが本来は不明）。尾：多くは後面平たくヤツデの葉型、尾の前面にも小渦があることが多い（「2－考察」図2－9）。体のひねり明瞭（図3－1 阿－②）。

S2 丹生川上神社（中社）（嘉永六年1853 十一月、菟田郡平井村二而作之 但州朝来郡竹田町産石工照信花押、阿：世話人 五味九兵衛）
奈良県吉野郡東吉野村小。奈良文化財同好会1999、藤倉2000。

中型。耳：平ら横向き、先の毛流れない。顎鬚短。阿吽ともたてがみ前になびく。阿雄。尾：扇型、上向き直毛束阿吽とも3で後面膨らむ、付け根に左右を通して穴が貫通、横の渦は左右阿各4・吽各5、後面にも渦があり阿左右各1・吽上下に並んで左右2。胸紋：阿1・吽無し。背骨：阿吽とも菊紋2。

S3 神楽岡神社（嘉永七年1854 四月、但州竹田産作師照信花押、阿：大坂道修町近江屋彦兵エ、吽：大坂北濱壺丁目近江屋政七）
奈良県宇陀市大宇陀区岩清水。金森1988、奈良文化財同好会1999、藤倉2000。

中型。耳：平ら横向き、先の毛流れない。顎鬚短。阿吽ともたてがみ前になびく。阿雄。尾：阿吽とも後面平らなヤツデの葉型、大きな上向き直毛束5束、渦小さく尾の下方左右に阿各3・吽各2、尾の付け根に穴が貫通。胸紋：阿2・吽なし。背骨：菊紋阿4・吽5。後ろ足付け根阿吽とも左右に菊紋各1。脚付け根阿吽とも手前側が下がり、後ろにひく、ひねり明瞭。

S4 宇太水分神社（嘉永七年1854 九月、作師照信花押、世話人堀山権作・施主多数の名前）
奈良県宇陀市菟田野区古市場。金森1988、奈良文化財同好会1999、藤倉2000。

大型。耳：平ら横向き、先の毛流れない（吽の右耳先がやや流れる傾向を示している）。顎鬚短。たてがみ：阿前になびく・吽後向き。雌雄無し。尾：ヤツデの葉型、阿吽同形、上向き直毛束3束、横の巻き毛左右各5（尾の前面2、後面3）。尾の付け根：穴貫通せず。胸紋：阿2・吽1。背骨：阿吽とも2菊紋。阿吽とも、脚付け根は手前側が下がり、後ろにひき、ひねり明瞭。

S5 久米御縣神社（安政二年1855 十一月、作師照信花押、阿吽とも：村中安全、氏子中）
奈良県橿原市久米町。奈良文化財同好会1999。

中型。耳の毛短く流れる（目じり付近まで）。目と鼻先やや長め。顎鬚短。阿小さく雄。たてがみ：阿後向き・咩前になびく。尾：ヤツデの葉型、阿咩同形、上向き直毛束3、横の渦（十分巻いていないものも含む）左右各5（尾の前面2、後面3）。尾の付け根：穴貫通せず。胸紋：阿2・咩1。背骨：阿咩共菊紋2。肩の傾き、体のひねり明瞭。脚付け根：阿左脚（手前）咩左脚（奥）下げ後方にひく、重心を奥側に置きながら、頭を傾げて手前側に向ける（阿よりも咩で明瞭）。

S 6 興留・素蓋鳴神社神社（安政四年1857 九月、作師照信花押、咩：龍田 石工九兵衛）

奈良県生駒郡斑鳩町興留東。奈良文化財同好会1999、藤倉2000。

大型。体高／胸幅上昇。耳の毛長く流れる（「2－考察」図2－4 ただし口横まで）が、顎鬚短。阿浅く雄。たてがみ：阿前になびく、咩後向き。尾：ヤツデの葉型、縦／横低い、付け根穴貫通せず、阿咩同形、上向き直毛束5、横渦左右各7（尾の前面4、後面3）。胸紋：阿咩とも1。胸紋と脚の付け根の間に筋がある。背骨：阿菊紋3・咩2。体のひねり明瞭。阿咩とも前脚付け根手前側下げ、後方にひく。手前から見たとき、頭部せり出す感じが強い。

S 7 藤森・十二支社（台座のみ：安政五年1858 十二月、元の狛犬が無いために銘不明、阿：氏子中、酒屋茂八・源七・重兵衛、田原本 吉邑茂吉・友吉・忠吉、八木善三郎、咩：氏子中、村中安全）新奈良県大和高田市藤森。

中型。本来の狛犬は失われ、以下平成五年1993 一月奉納の狛犬より。体高／体長1.1と小さくずんぐり型、体高／胸幅2.5と大、これは胸の幅がつま先と同じことによる。雌雄無し。角なし。耳の毛長く流れる（口横まで）。顎鬚中。たてがみ下向き。胸紋：咩に1小毛束。背骨なし。尾：やや縦長・厚めだが阿咩同形、上向き直毛束5、横渦左右3、後面中央渦1。前脚並行、付け根にずれなし。

第Ⅲ期（1859—1861）

尾は縦に太いろうそくの炎型と、大きく巻くもの。目と鼻間短。顎鬚長（「2－考察」図2－4）。体高／体長、体高／胸幅ともに大。阿咩とも顔を手前側に斜めに向ける。州浜は四方から脚が見える。尾付け根貫通せず。多くの場合後ろ足後方流れ毛の先に渦がある（「2－考察」図2－8）

S 8 伴堂・杵築神社（安政六年1859 四月、作師照信花押、咩：大坂住石工佐吉）

奈良県磯城郡三宅町伴堂。昭和62年奈良文化財同好会、1988金森、2000藤倉。

大型。体縦長。州浜に模様あり。雌雄なし。咩角あり。耳の毛長く顎付近まで流れ、顎鬚長。たてがみ下向き。尾：縦長、阿咩ほぼ同形、ろうそくの炎型、上向きの毛束多数が先で一つになる、渦左右各8。尾横の渦の巻き方が阿咩で異なる。脚や背に菊紋多数、胸紋なし。背骨：不明瞭だが阿菊紋3、咩2。後ろ足後方流れ毛の先に渦1。犬歯2対。前脚付け根阿咩とも左下がり。咩では奥側が下がり、ひくが、右（手前）脚を傾けて、頭手前にせり出す。

S 9 下永・八幡神社（安政六年1859 九月、作師照信花押、阿：岡西伊兵衛、岡西伊佐エ門、長尾村椿本八重、咩：氏子中、大坂住石工佐吉）

奈良県磯城郡川西町下永。昭和62年奈良文化財同好会、1988金森、2000藤倉。

大型。体高／体長はS 8と同じ、体高／胸幅はやや小。雌雄なし。角なし。耳の毛顎付近まで流れる。たてがみ下向き。尾：全体に上向き前方に流れて巻く、毛束阿咩とも7、毛先に小さい渦あり。胸紋なし。背骨菊紋：阿2・咩3。後ろ足後方流れ毛の先に渦なし。犬歯2対。前脚左右つま先：阿咩ともほ

とんど差なし。しかし前脚付け根：阿咩とも手前側の肩下がり、頭部せり出し。

S10 永原・御霊神社（阿：安政七年1860 閏三月、咩：万延元年1860 三月、照信作花押、阿：惣氏子、寄進永原村・福知堂村27人の名前+1、咩：氏子、九條邑、世話人4人の名前）

奈良県天理市永原町。金森1988、奈良文化財同好会1999、藤倉2000

中型。体高／体長S9より小。雌雄なし。角なし。耳の毛顎付近まで流れる。たてがみ下向き。尾：炎型、基本的に左右同形、中央縦の直毛束先で一つになる、横の巻き毛左右各3、中央に渦1（横渦の巻く方向が阿咩で異なる）。菊紋全くなし。背骨：膨らみのみ。後ろ足後方流れ毛の先に渦1。犬歯2対。つま先位置：阿左右で差がない・咩右後位置。脚の付け根：阿咩とも手前側下がり、後ろにひく。

S11 柏原・八幡神社（文久元年1861 五月、作師村上源照信花押、石匠照信花押、阿：施主上山孝之進藤原成績、当所石工仁兵エ、咩：施主田口金次昌榮、世話人當所播磨屋徳兵衛、越後屋定助）

兵庫県丹波市柏原町。金森1988、奈良文化財同好会1999、藤倉2000、小寺2003。

中型。体高／体長、体高／胸幅S9に同じ。阿雄。咩角不明（見えず）。耳平らで後方に流れる（口の後方あたりまで）。顎鬚長。たてがみ阿咩とも前になびく。尾：全体に前・上向きに流れて巻く、毛束は透かし彫りで、横で渦になる毛束あり。胸紋なし。背骨：膨らみのみ。菊紋なし。後ろ足後方流れ毛の先に渦2。犬歯1対。前脚つま先左右で差少、阿咩とも左脚付け根下がり後ろにひく。阿、頭部よく手前へせり出す、咩奥側がひいているが、頭部手前向き。

第Ⅳ期（1861—1863頃）

体形ずんぐり型。尻尾は後面平らなヤツデの葉型、後面中央に複数の渦が1列半円状に並ぶ（阿波神社では阿のみ）。雌雄なし。阿咩とも顔を拝観者側に斜めに向ける。州浜は四方から脚が見える。「奉献」の文字は様々。尾の付け根は貫通せず。尾の前面に小渦あり。S15以外顎鬚長。耳流れ毛短縮傾向。

S12 沢・白山神社（文久元年1861 十二月、無銘、阿：氏子中）新

奈良県北葛城郡広陵町沢。

中型。体高／体長、体高／胸幅は第Ⅱ期前半に同じ。角なし。耳の毛長く顎まで。たてがみ下向き。尾：阿咩とも直毛束5、後面横に並ぶ渦阿5・咩6、前面（尾の付け根付近）の小渦阿咩とも左右各3（図4-1 S12咩-②）。胸紋なし、背骨：阿咩とも菊紋2。後ろ足後方に流れる毛の先に渦なし、表現簡単。犬歯1対。前足付け根：阿咩とも手前側下げて後ろにひく。前足後面仕上げ粗。

S13 兵主神社（文久二年1862 十一月、台座のみ、「作師照信花押」記録有、阿：氏子中）

大阪府岸和田市西之内町。奈良文化財同好会1999—佐吉狛犬写真・銘の記録、藤倉2000、小寺2003。

大型。以下平成七年1995 十二月の狛犬より。体高／体長がS12と同じだが、体高／胸幅が第Ⅲ期なみに高いのは、前足がまっすぐで胸幅が広がらないため。角不明（見えない）。耳：平ら、後ろ下方に垂れ口後方まで。たてがみ：阿前になびく、咩下向き。胸紋なし。尾：阿咩とも直毛束5、後面の渦は阿6・咩5（奈良文化財同好会1999の写真から咩の尾右前側に小渦4個）。犬歯1対。後ろ足後方に流れる毛の先に渦1。

S14 神岳神社（文久三年1863 九月、作師照信花押、阿咩とも氏子中）

奈良県生駒郡斑鳩町神南。奈良文化財同好会1999、藤倉2000。

中型。体高／体長、体高／胸幅、尾の縦横比はS12に同じ。角無し。耳の毛口と顎の間まで。たてが

み下向き。尾：阿咩とも直毛束5、後面の渦阿5・咩6（彫りが浅い）、尾前面の渦小さく、阿左右各4・咩各3。胸紋なし。背骨阿咩とも菊紋2。後ろ足後方流れ毛の先に渦なし、表現簡単。犬歯2対。「奉獻」の彫りが非常に浅い。前足後面仕上げ粗。前脚付け根：阿手前下がり後ろにひく・咩手前低く前に出る。

S 15 阿波神社（台座正面の寄進年月破損により不明、作師照信花押、他になし）

奈良県生駒郡斑鳩町阿波。奈良文化財同好会1999。

中型。体高／体長、体高／胸幅とも他の同期のものに比べるとやや高い。角不明瞭。耳の毛：口まで（阿の方が短め）。たてがみ：阿前になびく・咩下向き。尾：阿のみ後面に渦がある、阿直毛束7、後面の渦7・咩直毛束5、横渦左右各3、中央なし。尾前面の小渦阿咩とも左右各2。胸紋：渦、阿2・咩1。胸紋と前脚付け根間に縦筋がある。背骨菊紋阿4・咩3。後ろ足後方に流れる毛の先に渦なし。犬歯2対。前脚付け根：阿手前下がり後方にひく・咩手前不明瞭なるも下げて前に出ているよう。

第V期（時期不明）

阿咩とも顔を正対して手前側に向かない。鼻先が長い。州浜：前面に模様有り、前から脚が見えない。尾：中央にふくらみがあり、毛束が上に伸び、横下に渦あり。たてがみ：阿咩とも前に流れ、顎下の毛先は体側から浮き出る、毛束の毛筋は1本。尾付け根貫通せず。雌雄なし。

S 16 摩気神社（寄進年なし、照信花押、阿：干時祠宦上田正延、5人の名、世話人森田源兵衛、咩：5人の名、世話人辻田栄治郎）

京都府南丹市園部町竹井。小寺1999。

中型。体高／胸幅高めで胴部スリム。咩角あり。耳：平たく横向き。尾：阿咩同形、上向き直毛束8（前後3列、前から2・5・1）、前面渦左右各1、中央渦なし。胸紋無く、胸に筋がある（「2－考察」図2－5）。背骨：菊紋阿咩とも3。「奉納」州浜にあり。後ろ足後方流れ毛の先に渦2。犬歯2対。前足左右のつま先位置の差大、阿咩とも左足つま先かなり後ろにさがり、右足首上に持ち上げ（「2－考察」図6－2）。舌は付け根まで明瞭。台座最下段小型の石積み。狛犬・台座ともこの地方の石。

(2) 参考狛犬

U 牟佐坐神社（慶応元年1865 六月、阿咩：氏子）

奈良県橿原市見瀬町

大型。「奉獻」の文字が似ている。州浜に杵線、脚、模様がある。阿雄。咩角あり。前脚：間隔が上下で同じで、ひじをくの字にやや曲げる。たてがみ後方に流れる。耳：厚く後ろを向く。尾：後ろ面平ら、阿咩とも中央直毛束1、横渦左右各3（長い毛束の先で巻く）。後ろ足後方の毛は巻き、流れない。後ろ足短く間の彫りこみはあるが仕上げが甘い。犬歯1対。菊紋なし。背骨ふくらみあり。

K 三井神社（天保十年1839 十一月、咩：大坂西横堀石工小島屋半兵衛）

奈良県生駒郡斑鳩町三井。

中型。台座に杵線・脚ともになし。阿雄。咩角あり。前脚の間隔が上下同じでまっすぐ。背中のたてがみ：くの字型に曲がって、手前側前へ、奥側後ろへ流れる。耳の毛流れず。尾：扇型、後面膨らむ、中央直毛束1、横渦左右各3、上の方まで伸びて先で巻く。吻先上下に反り返る。犬歯1対。後ろ足の毛はかかと部分で上に向く。後ろ足間彫りこみ浅いが仕上げ良。菊紋なし。背骨ふくらみあり。



S1 平井・八王子神社

S2 丹生川上神社



S3 神楽岡神社



S4 宇太水分神社



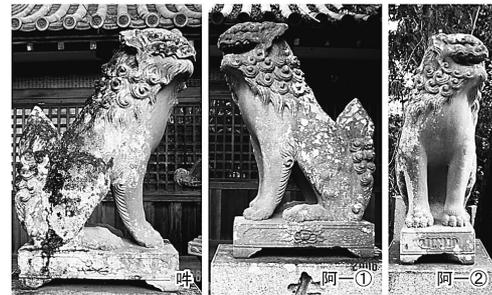
S5 久米御縣神社



S6 興留・素盞鳴神社



S7 藤森・十二支社



S8 伴堂・杵築神社



S9 下永・八幡神社

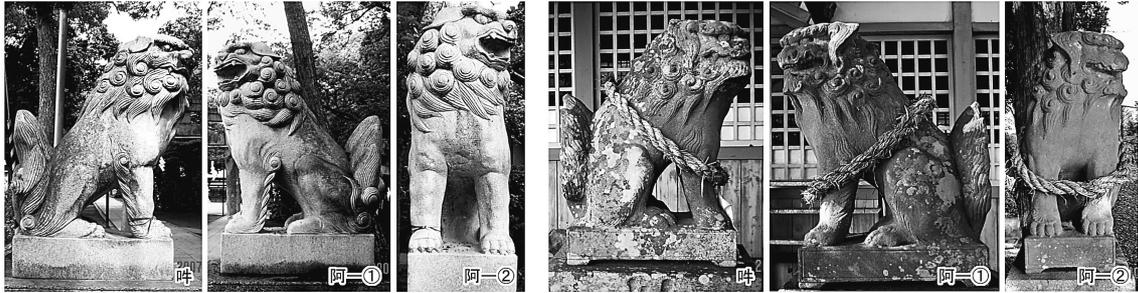
S10 永原・御霊神社

図3-1 狛犬正面の写真



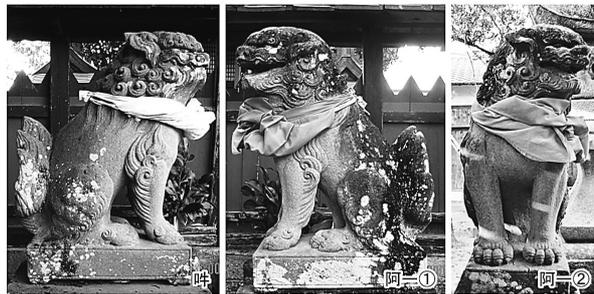
S11 柏原・八幡神社

S12 沢・白山神社



S13 兵主神社

S14 神岳神社



S15 阿波神社



S16 摩気神社



U 牟佐坐神社

K 三井神社

図3-2 狛犬正面の写真(続き)

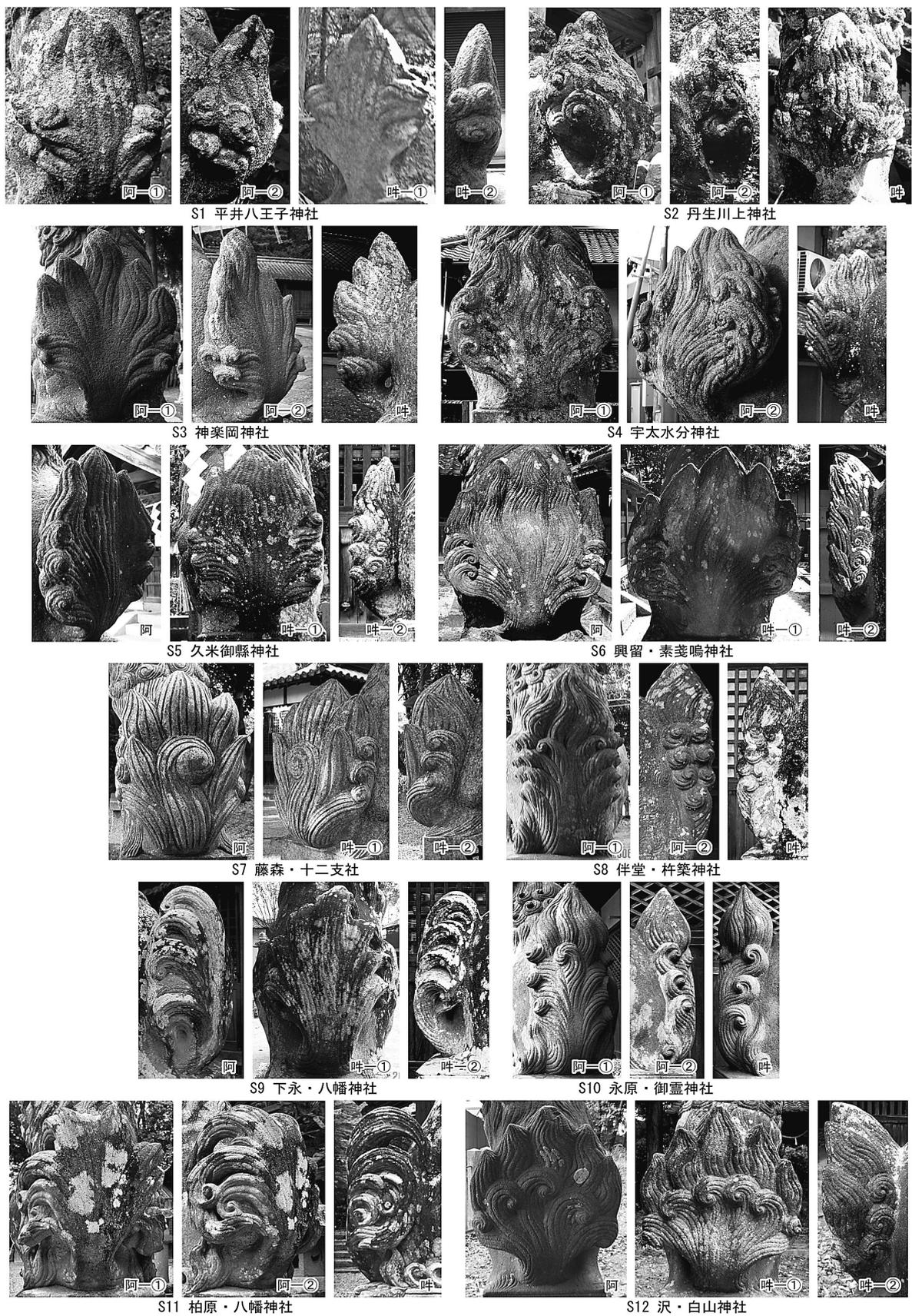


図4-1 尾の写真

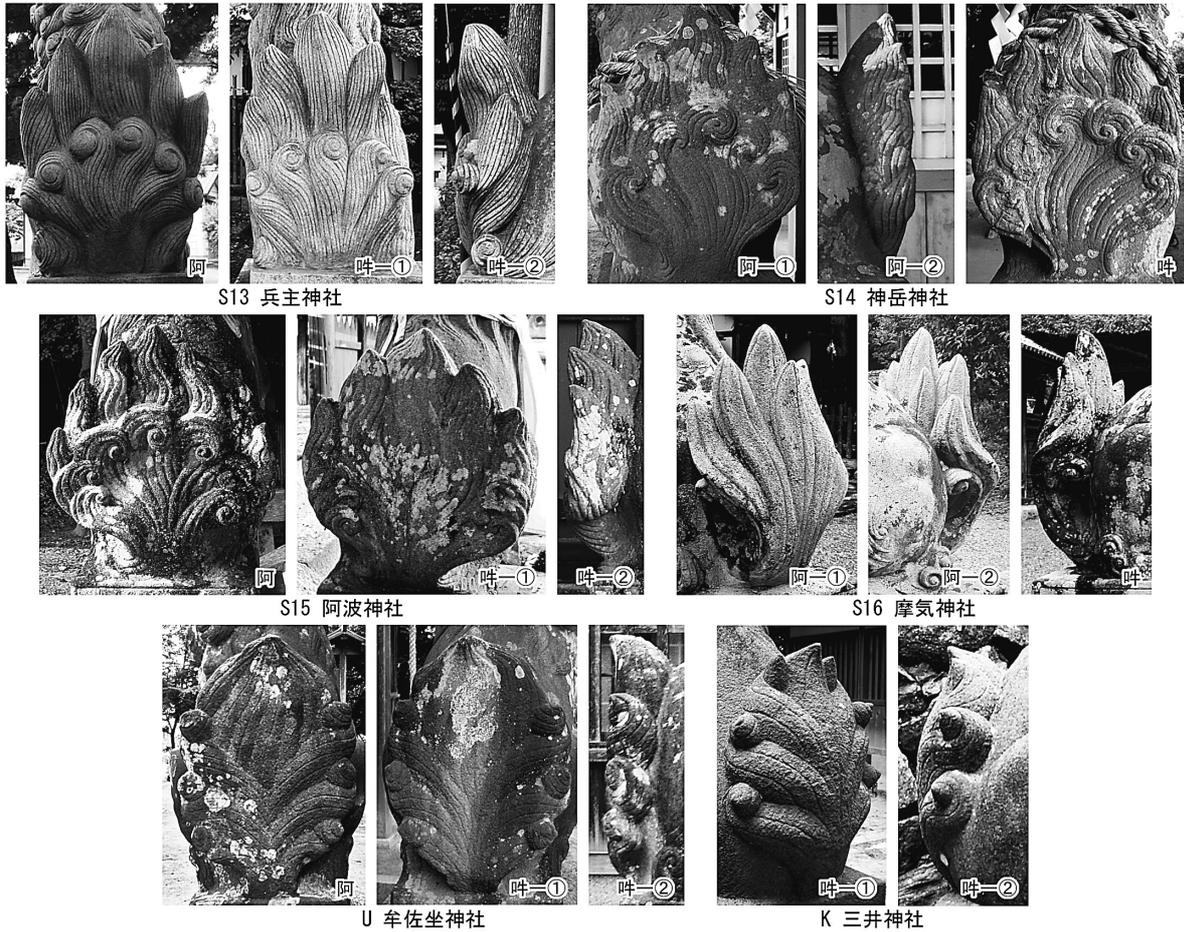


図 4 - 2 尾の写真 (続き)

5、まとめ

丹波佐吉の狛犬の全てについて形を比較検討し、全体を5期に分けた。各期はおおむね体形、顔つき、尾の形態によって分けることができる。また「奉献」の文字は、多くの場合独特で佐吉の文字と考えられる。この文字の字体は、狛犬製作前半ではほぼ同様であるが、後半では様々である。

参考文献

- 金森敦子 1988 旅の石工—丹波佐吉の生涯 法政大学出版局
- 小寺慶昭 1999 京都狛犬巡り ナカニシヤ出版
- 小寺慶昭 2003 大阪狛犬の謎 ナカニシヤ出版
- 奈良文化財同好会 1999 狛犬の研究 — 大阪府の狛犬 — 奈良文化財同好会
- 藤倉郁子 2000 狛犬の歴史、岩波出版サービスセンター